勤行川を彩る緑化活動

山口 信也 さん（末広町）

今年の春も桜の開花が待ち遠しいです。自転車に乗って出かけてみたいと思います。

寒さが和らぎ、春の足音が聞こえ始める季節になりました。春といえば桜。市の木にもなっていて、市内には多くの桜スポットがあります。私が今一番注目しているのは、蒔田橋から上流に向かって約2㎞にわたり堤防沿いに整備された桜並木です。

今回、桜並木を含むこの区域の環境美化活動を行う「勤行川の花と緑と鮭を育て守る会」の谷中清彦代表、柴勝さん、早瀬長利さん、廣澤多彦さんを取材しました。

「まちをきれいに」が原点

同会の発足は平成20年で、活動区域である勤行川沿いに葦が生い茂り不法投棄などが多かったことから、美化活動を行ったのが始まりだといいます。現在の主な活動としては、桜の剪定や消毒などの維持管理や秋に向けてコスモスを育てているほか、遡上してきた鮭の観察会を子ども向けに開催するなど幅広く取り組んでいます。

勤行川の花と緑と鮭を育て守る会のみなさん
（左から廣澤さん、早瀬さん、谷中さん、柴さん）

春の桜、秋のコスモス

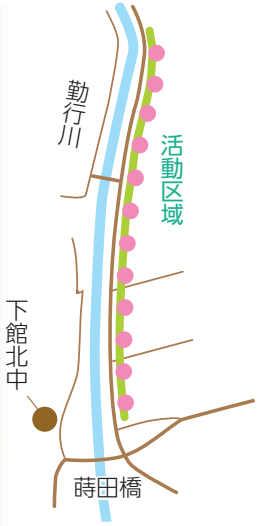
桜並木について「平成21年から2年間かけて105本の『一葉』という品種の八重桜を植樹しました。桜は植樹後10年ほどは、花よりも葉をつける性質なので、近年やっと花を楽しめる木に成長しました。開花は4月中旬のためソメイヨシノが終わっても桜を楽しむことができるんです」と柴さんと谷中さんは声を揃えます。春に向け剪定作業をしてきた会員のみなさんも、今年の春が待ち遠しい様子でした。

桜の木の消毒

コスモスの播種

秋になると桜の木の下にはコスモスが見事に咲き誇りますが、苦難も多かったといいます。「初めは手で種を蒔いていたので、種が均一に蒔けず大量の種が必要でした。また、種を7月に蒔いたときは雑草の成長が早く、炎天下の中約2週間草取りに追われました。経験を重ねて、今は機械化を進めたり、播種の時期を変えたりして、地域の人に、より一層きれいなコスモスロードを見てもらえるようになりました」と振り返る早瀬さんと廣澤さん。花を楽しむ人達の姿を見るとやりがいを感じるとともに、苦労はあっても楽しみながら活動してきたと話すみなさんの顔からは笑みがこぼれていました。

取材を終えて

春と秋のこの美しい風景を次世代に受け継いでいきたいという、みなさんの気持ちに強く共感するとともに、たくさんの努力に支えられた風景なのだと知り、今年はいつも以上に美しく感じられる気がしました。

ぜひ、みなさんも開花に合わせて足を運んでみてください。